

JHFREPORT



2018年11月開催「パラグライディングアキュラシー日本選手権 in 小山」より。(P10-11の報告をご覧ください。)

ひとりひとりが「安全に楽しく」飛び続けること。

平成最後の年が始まりました。大きな自然災害が起きないように、ハンググライディング・パラグライディングを笑顔で楽しめる平穏な年になるようにと願います。

あなたの今年の目標はどのようなものでしょうか。「この春には高高度飛行をする」「今年こそ30km先の目的地まで飛ぶ」「リーグ大会で優勝する」……等々。気象条件に恵まれ、それぞれが達成されますように。

そして何よりも「安全に楽しく」フライトを続けられますように。

安全性向上のための活動はJHF事業の大きな柱のひとつです。今年も安全フライトに関するさまざまな活動を予定していますが、大切なのは、フライヤー各人が「安全に楽しく」飛び続けるために何が必要か、それを常に考え行動すること、ではないでしょうか。人間が空を飛ぶという本来あり得ない行為を楽しむのですから、そこに発生

する可能性のあるリスクについても冷静に考え、十分な安全マージンを確保して対処したいものです。

さて、今年は現JHF理事・監事の任期満了に伴う役員改選の年です。安全性向上はもちろんのこと、ハンググライディング・パラグライディングというスポーツの未来のために何かしたいという方、役員として連盟の運営に参加しませんか。立候補をお待ちしています（詳しくは次ページを参照）。

スポーツクジ



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

今年6月に理事・監事を改選、立候補者を募ります。

役員の任期満了に伴う改選

JHF役員選任実行委員会

本年6月11日開催予定の定時総会で、現任役員の任期満了に伴う改選が行われます。

JHFの理事ならびに監事の任期は、定款第27条により「選任されてから2年目の定時総会の終結の時まで」と定められています。

以下、JHF役員の選任について説明します。

1. 立候補資格者

JHF役員選任規約第9条に定められているとおり、立候補届出時に有効なJHFフライヤー登録者で、かつ住民票所在地の都道府県連盟（JHF正会員）に所属し、住民票所在地または活動地域の都道府県連盟から推薦を受けた方なら、誰でもJHF役員に立候補する資格があります。

ただし、上位の法律（公益認定法）では、公益法人の事業を行うにあたり、役員・正会員・職員に特別な利益を与えることを禁じる旨が明文化されており、自己に有利な利益誘導があれば罰せられます。

2. 選任方法

選任のための役員立候補者の募集活動や、選任事務は「役員選任実行委員会（以下、選任委員会）」が実行します。

役員の選任は、概ね以下のとおりのスケジュールで行われます。

◇役員選任議題のある総会の約10週間前（3月19日を予定）に選任委員会が選任公示を行います。選任に関する資料を正会員に配布し、JHFホームページにも一部掲載します。

◇総会の約6週間前（5月7日を予定）

に立候補受付を締め切ります。

◇総会の約4週間前（5月14日を予定）に立候補者の公示が行われます。

総会当日（6月11日を予定）は、役員選任議題の場で、正会員が投票により立候補者それぞれに選任の決議を行います。開票後、過半数の賛成票を得た立候補者のうち、役員定数内の得票上位者が役員として議決されます。

3. その他

(1) JHF組織

JHFは正会員とフライヤー会員が構成員となり（下図）公益認定時に公益認定等委員会へ届け出た「公益に関わる事業で、かつ不特定多数の者の利益の増進に寄与する事業」を行います。

JHFの事業や規約等は、法律の範囲で正会員によって構成される「JHF総会」が決定します。総会によって選任されたJHF理事は「理事会」の一員として法と定款および総会決議に基づき、責任を持って業務を執行します。

また、総会で選任されたJHF監事は、法や定款および総会決議に基づいたJHF活動が行われているかを監査します。

(2) 理事の主な役割

- 定時総会・臨時総会の招集を行う。
- 総会議題議案の決定と正会員への通知を行う。
- 理事会への出席（電磁式理事会への出席も含む）。
- JHF事業の業務執行と経営統治権限による職務を忠実に執行する。
- JHFに損害が生じる恐れのある時は正会員に報告する義務がある。
- 代表理事会長の選定、および解職を

行う。

○理事の行為によるJHF損害への賠償責任を負う。

○委員会の設置および委員の選任権がある。

○収支予算・事業計画作成権、会長が作成し理事会が承認する。

(3) 監事の主な役割

●理事の職務が適正に執行されているかの監査を行う権限と、監査報告を作成する義務がある。

●JHF業務や財産の状況を調査する権限を持つ。

●理事に不正行為の恐れがある時は理事会に報告しなくてはならない。

●理事会に出席し必要ある時には意見を述べなければならない。

●理事不正行為にかかわる理事会招集請求権を持つ。

●総会議題議案や資料を調査しなければならない。

●理事の行為差止めの権限がある。

(4) 理事会

理事及び監事が招集される理事会が年に6回程度JHF事務局にて開催されます。また、電磁的手段（電子メール等）による文書理事会が月に1回程度開催されます。

(5) 規約の変更はありません

前回2017年通常総会にて行われた役員選任からの役員選任規約の変更はありません。

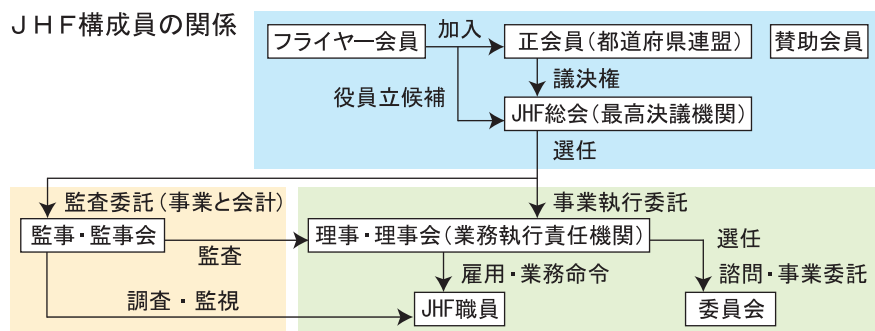
(6) 本年の役員選任にあたり選任委員会から正会員へのお願い

○役員推薦にあたっては、正会員から推薦理由文を提出していただきます。提出いただく推薦理由文は立候補者本人の立候補意思表明と同様に一般に公開いたします。

○他都道府県在住者を推薦する場合は、立候補者が住民票所在地の正会員に所属している事を確認した上で推薦をお願いします。

○立候補意志表明書（以下、意志表明書）に、立候補者に最低限回答して欲しい質問項目を設けます。立候補者には質問に対する回答を含めて意志表明書を作成していただきます。この質問項目を広く募集します。選

JHF構成員の関係



任委員会は、正会員からの提案を参考に、意志表明書の作成要領を作成します。質問項目の提案を2月19日まで受け付けます。立候補者に回答を求めたい質問項目がある正会員は、下記にご連絡ください。

jhf-rikkouho-q-2019@googlegroups.com

以上をご理解いただいた上で、JHFの運営を積極的に担っていただける方を広く募ります。ハンググライディング・パラグライディングの未来のために、空の仲間のために活動したいという方、ぜひ立候補してください。

役員選任のスケジュール等は、JHFウェブサイト上でお知らせしていきます。お問い合わせはJHF事務局まで。



普及活動も重要な連盟事業。日本航空協会航空スポーツ教室での体験搭乗。写真提供：東京都ハング・パラグライディング連盟

JHFの動き

埼玉スカイスportsフェスタ PG/HG体験会を実施

2018年10月21日(日)、埼玉県熊谷市妻沼滑空場で開催された「埼玉スカイスportsフェスタ」をJHFが後援、恒例のパラグライダー、ハンググライダー体験会、デモフライトを実施しました。

今回は、山形県南陽市のソアリングシステムパラグライダースクールの協力で車椅子パラグライダーのデモフライトもあり、注目を集めました。



車椅子パラグライダーのデモフライト。

2019年CIVL総会 ローザンヌで開催

国際航空連盟 (FAI) の国際ハンググライディング・パラグライディング委員会 (CIVL) の総会と各部会が、この1月31日～2月3日にローザンヌで開催されます。日本を代表するデレゲート(委員)として岡芳樹さんが日本航空協会より派遣され、また、北野正浩さんがオブザーバー参加します。総会の報告はJHFウェブサイト/JHFレポート次号に掲載しますので、ご覧ください(特に競技に参加する方は必読)。

今年は世界選手権イヤー 日本代表選手の応援を！

今年は下記の三つの世界選手権が開催されます。もちろん、選抜を勝ち抜いてきた日本代表選手たちが参加する予定。日本チームの顔ぶれが正式に決まり次第、JHFウェブサイトでお知らせします。世界の強豪を相手に頑張る選手たちを応援しましょう！

●第10回FAIパラグライディングアキュラシー世界選手権

9月8日～18日 セルビア

●第22回FAIハンググライディングクラス1世界選手権

7月13日～27日 イタリア

●第16回FAIパラグライディング世界選手権

8月5日～18日 マケドニア

タンデム技能証規程 理事会で改定の検討

昨年、たいへん残念なことに、タンデムフライトによる複数の死傷事故が発生してしまいました。パラグライディングタンデム技能証を保有する方々には「タンデムフライト事故防止のための緊急安全対策のお願い」をお送りしました。同様の事故を繰り返さないため、JHF教員・スクール事業委員会、制度委員会ではさらに対策を検討し、タンデム技能証制度(規程)の改定について理事会に上申、理事会で審議を行うことになりました。制度(規程)改定の具体的なことは、後日JHFウェブサイト/JHFレポート等でお知らせします。



2017年7月イタリア開催、第15回FAIパラグライディング世界選手権。テイクオフを待つ選手たち。

ハーネスセッティングによる飛行特性の変化

JHF安全性委員会 竹村 治雄

新しい年を迎えました。今年も安全なフライトを心がけていただきますようお願いいたします。特に、寒い時のフライトでは、防寒具や防寒着のため普段より体の動きが鈍くなりがちで、また寒さで運動能力も暖かい時より低くなります。余裕を持ったフライトプランを作成してこの時期のスカイスポーツを楽しんでください。

PMAハーネスエフェクトテスト

パラグライダーの製造会社で組織されているParaglider Manufacturers' Association (PMA) が、ハーネスセッティングの違いによるパラグライダーのフライト特性の変化について検証を行い、その結果をPMAのFacebookページで公開しています。

<https://www.facebook.com/87730pma/>

同じパラグライダーでも、ハーネスのセッティングを変えてフライトすると、翼の潰れ等に対する飛行特性が大きく異なる場合があります。場合によってはそのグライダーの認証カテゴリーとは異なる挙動をすることがあるということです。具体的な検証の概要を以下に記します。

テストに用いられたグライダーは4機。3機はLow Bクラスのグライダー、1機は軽量のAクラスのグライダーでした。これら4機のグライダーを4種類のハーネスと組み合わせています。ハーネスの中にはシートボードのない軽量タイプも含まれています。競技用のハーネスはLow Bクラスのグライダーとの組み合わせが実際的ではないため用いられませんでした。テストに

利用した機体とハーネスは、調査に協力したメーカーに迷惑がかからないよう公開されていません。

これらのグライダーとハーネスの組み合わせで、イタリアのガルダ湖のエリアにてENのテスト条件を満たす天候の時に、丸2日間40本以上のテストフライトが実施されました。実施されたテストフライトは、対称フロントコラップス、非対称サイドコラップス(75%)、ディープスパイラルの3種類です。一例として、対称フロントコラップスのEN認証での判定例を下の表1に示します。

最初は自然に上体を起こした設定とし、ハーネスのチェストストラップもENの規定通りの間隔でフライト。次にチェストベルトを最も広げた状態、次にさらに上体を最もリクライニングした状態のセッティングでテストが実施されました。

その結果、ENの規定通りのセッティングにした場合は、吊り位置が高いハーネスや、シートボードのないハーネスではENテストとは違う挙動が観察されたものの、すべての組み合わせで認証クラスの変化はなかったと報告されています。

しかし、チェストベルトを全開にすると、Aクラスのグライダーがすべて

のハーネスとの組み合わせでBクラスの動きになったとのことです。

さらに、背中調整が最もリクライニングした状態では、BクラスのグライダーがCクラスの動きをしたり、一部の組み合わせではDクラスの動きをしたとのことです。

ENの認証テストでは、グライダーごとに上限と下限の重量でテストを行っていますが、ハーネスのセッティングは体を起こしたポジションで、チェストベルトの調整（カラビナの間隔が決まります）と、吊り位置も飛行総重量ごとに定められた値でテストが行われています（次ページ図1）。それ以外のセッティングでフライトした時の特性はテストされていません。今回のPMAのテストでは、標準位置でないハーネスのセッティングでフライトした場合、特にチェストベルトの長さや背中のリクライニングがグライダーの飛行特性に影響を与えることを示しています。

ENの認証はあくまで目安であり、自身のハーネスでフライトした場合のグライダー飛行特性を保証するものではないことを、私たちは再確認する必要があります。

PMAのレポートでも書かれていましたが、パラグライダーは、一般の航

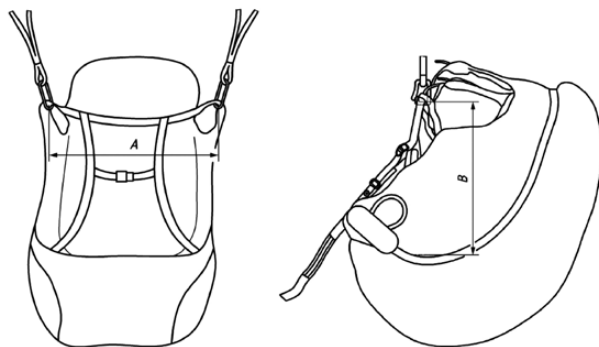
評価項目	結 果	判定
エントリー	ロッキングバック<45°	A
	ロッキングバック>45°	C
リカバリー	自然回復<3S	A
	自然回復3-5S	B
	回復操作後3S以内に回復	D
	回復操作後3-5Sで回復	D
	回復操作後5S以上	F

評価項目	結 果		判定
前方へのダイブと回復時のコース変化	前方ダイブ0°から30°	コース変化なし	A
	前方ダイブ0°から30°	ターン 90°以内	A
	前方ダイブ0°から30°	ターン 90° - 180°	C
	前方ダイブ30°から60°	コース変化なし	B
	前方ダイブ30°から60°	ターン 90°以内	B
	前方ダイブ30°から60°	ターン 90° - 180°	C
	前方ダイブ60°から90°	コース変化なし	D
	前方ダイブ60°から90°	ターン 90°以内	D
	前方ダイブ60°から90°	ターン 90° - 180°	F
	前方ダイブ90°以上	コース変化なし	F
	前方ダイブ90°以上	ターン 90°以内	F
	前方ダイブ90°以上	ターン 90° - 180°	F
カスケード	なし		A
	あり		F

表1 対称フロントコラップスENテスト項目と判定

各評価項目ごとに評価を行い、A、B、C、D、Fのうち最も評価の悪いものが、このエントリーの評価となる。Fは認証不合格。

図1 EN認証におけるハーネスのセッティング



TWF (飛行総重量)	< 80 Kg	80Kg - 100Kg	> 100Kg
幅 (Aの部分の長さ)	(40±2)cm	(44±2)cm	(48±2)cm
高さ (Bの部分の長さ)	(40±1)cm	(42±1)cm	(44±2)cm

空機と違って、キャノピー、ハーネス、レスキューパラシュートを自由に組み合わせることができ、自分のニーズに合わせた組み合わせでフライトする楽しみがあります。その反面、組み合わせによって生じる飛行特性の違いについてパイロットが責任を負うことになります。

今一度、使用しているハーネスのセッティングが認証テストのセッティングとどれくらい違うのかを確認する

ことや、調整箇所が緩んできていないかなど点検を日常的に行うことをお勧めします。

機材の安全に関する情報は

JHFウェブ安全性委員会ページで

JHFウェブサイト内、安全性委員会のページには、機材の耐空性改善に関する通報「セーフティノート」をはじめ、さまざまな情報を掲載しています。ぜひご覧ください。

誰でも簡単に事故目撃レポート

起きてしまった事故を二度と繰り返さないために、JHFでは安全性委員会が中心となって事故の報告をまとめ、フライヤー会員の皆さんに注意喚起する活動を続けてきました。

ところが、報告されない事故があります。そこで、事故の日撃情報をJHFウェブサイトから簡単に報告することができるようになりました。事故を目撃したら、どなたでも、会員トップページから「事故情報収集ページ*」に入り、日時や場所、事故の状況などをわかる範囲で入力、送信してください。個人名を入力する必要はありません。

同様の事故を繰り返さないための情報集めに、ご協力をお願いします。情報を共有し事故ゼロを目指しましょう。

フライヤーが怪我をしていなくても、機体が壊れていなくても、また、事故にはならなかったけれどヒヤリとしたりハッとしたインシデント体験についてもぜひお知らせください。

*事故情報収集ページ：JHFウェブサイト、会員トップページの左上に入口があります。

学連ニュース

[2018年度PG新人戦]

今回は弘前大学、山形大学、福井県立大学、そして足尾エリアから総勢17名の選手が参加しました。

初日は気圧の谷の影響により、大会開催時点で風速3m/sを超えていたため競技は中止となり、代わりに学科講習が開かれました。

2日目は、10時には風が荒れるということを想定し、ゲートオープンの時間を早め、早朝の風の弱い時間帯に競技を行いました。

[大会結果]

1位 砂子綾汰選手



PG新人戦の参加者たち

2位 佐藤みずほ選手

3位 坂本太郎選手
若松大志選手

[2018年度PINK CUP]

1日目は北東風でしたが、微風であったため午前中は数人がテイクオフしました。昼頃から徐々に陽が出てきたことで正面からサーマルブローが入りほとんどの選手がテイクオフすることができました。中には2時間近くのフライトまたは全てのパイロンを回る選手もいました。数名がこの日飛ぶことができませんでしたが、無事競技は成立しました。

2日目は1日目より条件は悪いと予想されましたが、サーマルも出て全員飛ぶことができ、無事競技は成立しました。

今大会は社会人と学生がパラグライダー、ハンググライダーの垣根を越え、交流できる素晴らしい大会だとあらためて実感できました。ご協力くだ



PINK CUPではHGとPGと一緒に競技を行っている。



ターゲットを踏む選手もちらほら出たPINK CUP。

さった多くの方々に感謝申し上げます。

[大会結果]

1位 荒井大悟選手
2位 田原佳歩選手
3位 若杉厚志選手

「フライヤー登録の保険」について

登録すると第三者賠償責任保険に加入

ハンググライディング、パラグライディングを行う場合「フライヤー宣言」の精神に基づき行動し、他人に迷惑をかけないことを念頭におかなければなりません。

このため、フライヤー会員登録をすると、東京海上日動火災保険株式会社（以下東京海上日動）と契約をしている「第三者賠償責任保険」（個人賠償責任保険）に自動的に加入しています。あなた個人のハンググライダー、パラグライダーでの操作、あるいは飛行に起因する事故で、他人の身体に障害または財物に破壊等を与えた場合の治療費や修理代等、法律上の賠償責任を被った際に補償されます。

請求できない免責としては、故意に起こした事故、あなたが所有または管理する財物の損害事故、同居している親族に与えた事故、あなたの職務遂行に直接起因する事故…などは請求できません。もしフライヤー会員登録が切れていたら、その場合も対象外になります。

第三者への責任を果たすため、また賠償金の経済的な負担からあなた自身を守るためにもフライトの前には必ずフライヤー会員登録の期限の確認をお願いします。

無理せず事故リスクを減らす

ここ数年間で保険金支払い回数が目立つのは、ランディングの際に駐車場の車に損害を与えてしまう事故です。

2016年から2017年にかけては車対象

が3件で、他にも民家の壁や水道管の破壊等が代表的なもので4件あり、総額で約260万円が支払われました。

また、桁違いの保険金を支払うケースとしては、空中衝突によるものです。パラグライダー同士、ハンググライダーとパラグライダーの衝突、またはハンググライダーが建造物に衝突などが挙げられます。

フライトにおける注意すべき大きなポイントは、ランディングアプローチです。目標着陸地点への精度、外した場合の緊急判断を含めて、リスクを減らしたアプローチを行えるようにフライトプラン自体を飛行中に整える必要があります。自分の技量にあった機材を使用することも重要です。機材が技量に合っていないと、ランディングアプローチは格段に難しくなります。

そして、空中衝突を防ぐためには他機に近付かないこと。競技を含め、近付く場合には、リスクを十分配慮し、周囲警戒を常に怠らないこと。十分な余裕を持ち無理をしないことが、事故リスクを減らすことに役立ちます。他機が上空から落ちてくる場合もあります。左右警戒だけでなく、上空や下方の観察も常に必要となります。

今の自分のフライトスタイルを見直して、今後の安全なフライトへ活かしてください。

もし事故を起こしてしまったら

万が一事故を起こしてしまった場合は、まずJHF事務局にご連絡ください。JHF事務局が休業等の場合は、速やか

に東京海上日動の安心110番（TEL.0120-119-110）へご連絡いただき、後日その旨をJHF事務局にもご連絡ください。

連絡の際には、あなたのフライヤー会員番号、住所、氏名、電話番号、事故発生の日時・場所、事故の状況、相手（被害者）のケガ・損害の程度、被害者の住所・氏名が必要になりますので、準備してご連絡ください。

また、あなた（またはご家族）が他の賠償保険に加入していないかもご確認ください。

オプション等も含め他の賠償保険（自動車保険や火災保険、クレジットカード等の付帯契約での賠償保険）に加入されている場合には、事故報告の時に必ずお申し出ください。ご家族の方が加入されている場合も補償されることがありますので、必ず確認をして、お知らせください。両方の保険から分担して保険金が支払われます。高額保険金支払を避けることができるので、フライヤー登録の第三者賠償責任保険の負担を減らすためにも、ご自身の保険の見直しの際に賠償責任保険へのご加入もご検討くださるようよろしくお願いします（個人賠償責任保険は特約のため、個別には契約できず、自動車保険や火災保険、クレジットカード、共済等の付帯契約になります。年間数百円で設定されています）。

自分の怪我のためには任意加入の保険

ご自身の怪我のためには「JHF総合保障制度」（天災危険補償特約付帯、団体総合生活保険）に、任意でご加入いただけます。7月から1年間の保険ですが、中途加入が可能です。加入をご希望の方は以下の保険代理店までご連絡をお願いします。

（株）東海日動パートナーズTOKIO
池袋支店 TEL.03-6907-4622

フライト前には、機材の点検、装備類を装着しての点検、パラシュートリパック、体調は万全か等セルフチェックを忘れずに、またクロスチェックも怠らずにお願いします。

事故をなくして安全に楽しくフライトをしましょう！



2017年FAIパラグライディング世界選手権より。（記事の内容に関係はありません。）

停滞する秋雨前線に日本選手権者の誕生ならず。

9月21日-24日 茨城県石岡市足尾山エリア 報告：競技委員長 板垣 直樹

2017年に続き2年連続となる足尾山エリアでの日本選手権に日本全国から80人の選手が集まった。

毎年、この時期は稲の刈り取りも終わり台風が来なければ好条件になる。しかし、2018年は秋雨前線の停滞で曇りや雨の多いシーズンとなったまま日本選手権を迎えた。

9月21日 初日

停滞している秋雨前線の影響で一日中、雨となり競技キャンセル。

9月22日 2日目

昨日雨を降らせた前線は南下し、日照は少ないが曇り空で飛べる状況になる。しかし気温減率が悪くサーマルは弱い条件だ。

前半は西風でテイクオフ。ほとんどの選手は多少粘るが全員降りてしまう。その後、風が東に変わり飛び始めるが、やはり大半の選手が上がりず降りてしまい、競技としてはday qualityがプラスにならず不成立。

9月23日 3日目

前線の南下により曇りベースでも晴れ間が出て、減率は悪いものの日中の気温が上がりソアラブルになる。タスクは山と平地を小さく三往復した後、西の平野に出てまっすぐ関城ゴールの34km。

大半の選手が上げられずランディングしてしまう中で青木が一人で抜けて上げるが、サーマルは弱くスタート後も我慢の飛びでゆっくりとゴールへ向かう。その後リフライトの上山・中村が少しだけ好転した山並みの往復後に追いかけて中村がファーストゴール。リードポイントを保った上山がこの競技のトップとなった。

9月24日 4日目

一度、南下した前線だが再び北上し、天候が崩れ雲底も低く、競技性のない条件となり、キャンセル。

予備日として25日火曜日を予定していたが、停滞する秋雨前線の影響で競技として成立する可能性がゼロに近いため、予備日を使うことなく日本選手



板垣競技委員長がタスクを説明する。

権不成立で大会を終えた。

優勝した上山選手は、成立タスク1本だったが安定した強さと渋い条件下でも先頭を走るメンタルの強さを発揮した。

日本選手権としての成立条件が満たなかったことは誠に残念でならない。

[総合]

1位	上山 太郎	大 阪	674点
2位	中村 浩希	愛 知	664点
3位	青木 和広	埼 玉	644点
4位	高杉 慎吾	広 島	614点
5位	呉本 圭樹	長 野	570点
6位	吉田 和博	東 京	561点

[女子]

1位	望月 奈緒	大 阪	552点
2位	金本 知子	山 口	503点
3位	中目みどり	東 京	441点

[スポーツクラス]

1位	金本 知子	山 口	503点
2位	青木 政昭	千 葉	479点
3位	小林 大晃	三 重	409点
4位	川名 美江	静 岡	383点
5位	佐藤 研斗	茨 城	378点
6位	佐藤 仁一	北海道	377点



パイロットブリーフィングに集まる選手たち。



総合入賞者。後列中央が優勝の上山太郎選手。



女子入賞者。表彰台中央に立ったのは望月奈緒選手。



スポーツクラス入賞者。後列中央の金本知子選手がトップ。





ハンググライディング日本選手権2018 in 朝霧、名草慧選手。撮影：船橋みずほ

優勝は17歳のYOO、和田浩二が日本選手権2連覇。

11月10日-11日 栃木県小山市小山絹滑空場 報告：競技委員長 山谷 武繁

11月10日・11日の両日、パラグライディングアキュラシー日本選手権 in 小山が、栃木県小山市で開催されました。東京グライダークラブの菊池氏の協力により会場となったのは、鬼怒川河川敷の小山絹滑空場。競技のフライトは全てトーイングによって行われました。小山絹滑空場は周辺に障害となるものもなく、芝生も素晴らしい管理がされており、日本選手権にふさわしい環境が整っておりました。また大会期間中は見学者も大勢訪れて、競技を観戦されていました。

パラグライダー競技はまだマイナースポーツの域を越えずにいますが、このような立地で多くの観客に見えていただけなのは、全国でも少ない素晴らしい会場だと感じました。協力いただいた小山市、結城市、筑西市、東京グライダークラブならびに管理者の菊池様には、この場をお借りして感謝申し上げます。



鬼怒川の流れに沿った滑空場でトーイング発進。



ターゲット中心5cm以内のパッドスコアを狙って。

11月10日 ラウンド1-3

参加選手は国内と韓国からの6名を合わせて31名。昨年の日本選手権では海外勢に上位独占を許し屈辱を味わったが、今年こそ日本勢の奮起を期待したいところだ。韓国チームは全員が20代のパイロットで、そのフライト技術も非常に高い。日本選手は、アキュラシー競技のレベル向上のためには、多くを見習わねばならないと感じた。

ラウンド1は韓国チーム6名全員が5cm以内のパッドスコア。日本勢も6名がパッドスコアで、まずまずの滑り出しだ。競技初日は3ラウンドが行われ、全てパッドスコアのDagyeom LEE選手が16cmで総合と女子の部の両方で首位に立った。2位には17歳のJihun YOO選手、18cm。3位に前年日本選手権者の和田浩二選手、4位に岡芳樹選手、5位古田岳史選手、6位川村眞選手と続いた。

11月11日 ラウンド4-6

競技2日目は快晴に恵まれ、選手は次々と大空に舞い、3ラウンドの競技がスムーズに行われた。ラウンド5の終了時点では和田選手が12cmで首位に立った。2位は1cm差のJihun YOO選手、3位は18cmのJungmin LEE選手、4位は加賀山務選手、5位に岡選手、6位に女子のDagyeom LEE選手が

31cmと、上位6名が僅差で並び、最終のラウンド6を迎えた。

最終ラウンドは岡、加賀山の両選手がミスにより順位を落とした。上位3名のうち、まずは韓国チーム2名が確実にパッドスコアを叩きだした。最終の和田選手は4cmで優勝という場面でパッドスコアを出したが、惜しくも優勝には手が届かなかった。

優勝は17歳のJihun YOO選手、2位にJungmin LEE選手、3位に日本選手権2連覇となった和田選手が入った。

2019年は日本勢が優勝を勝ち取ることができるよう期待したい。

[スクラッチクラス]

1位	Jihun YOO	韓国	17点 (cm)
2位	Jungmin LEE	韓国	25点
3位	和田 浩二	静岡	27点
4位	Dagyeom LEE	韓国	40点
5位	岡 芳樹	東京	75点
6位	小松 理樹	茨城	104点

[ハンディキャップクラス]

1位	和田 浩二	静岡	3点
2位	加賀山 務	静岡	8点
3位	川村 眞	宮城	9点

[チーム]

1位	Airkassy	30点
2位	空とも	32点
3位	TEAM J LEAGE	41点



スクラッチクラスのトップ6。後列中央がYOO選手。



チーム戦トップ3。中央のAirkassyが勝利。



女子上位は韓国勢が独占。中央が1位Dagyeom LEE選手。



最後に記念撮影。次回、日本勢の活躍に期待！

和田浩二

とりあえず、2連覇できて嬉しいです。競技内容としても、前年に比べて進歩したのかな？と思っています。しかし最終ラウンドはちょっとしたサーマルに煽られ外してしまい韓国からオープン参加の選手2人にまくられてしまって、残念ながら大会成績は3位となってしまいました。今考えれば、もっと強引にコントロールしても良かったのではと思ひ少し残念です。

2019年こそは優勝して日本選手権者になりたいと思います。

伊藤まり子

アジア大会で盛り上がったおかげか、新しい顔ぶれが大勢参加してくれて、とても賑やかな日本選手権でした。風に翻弄されてしまい不甲斐ない成績でしたが、女子チャンピオンの座を取り戻せたことは素直に嬉しく思います。

この日本選手権では、アキュラシーはメンタルがとても大切な競技だということを実感しました。今後は新しい目標を見つけて精進し、風に翻弄されない強いメンタルを身につけたいと思います。



日本選手権獲得、和田浩二（左）と伊藤まり子選手。

新しい仲間たちと、アキュラシー競技を楽しみながら切磋琢磨して、全体がレベルアップしていくような良い流れが生まれるきっかけとなる大会だったと思います。

ハンググライディング日本選手権2018 in 朝霧

ベテラン勢上位独占。大門浩二、7度目の日本一！

11月22日-25日 静岡県富士宮市朝霧高原 西富士友の会エリア 報告：大会実行委員長 鈴木 由路

11月22日から25日にかけてハンググライディング日本選手権2018 in 朝霧が開催された。

朝霧のハンググライディングシリーズ大会は例年1月に開催されていたが今回は11月の開催となった。秋はコンディションが渋いのではないかと心配されたが、蓋を開けてみれば、期間中に寒気が入って朝霧らしいコンディションとなり、4日間に3本の競技が成立した。

11月23日 2日目 TASK 1

初日は雨で競技キャンセルとなったものの、2日目は寒気が入り、最高高度2400mまで上がるなど好コンディション。

2017年ランキング1位の30代田中元気選手とイタリアプレワールズで好成績を残した20代名草慧選手の2人が第二集団に5分以上離して先行していたが、終盤のオーバーキャストしたタイミングでランディングしてしまう。最終的にはこの渋い時間帯を上手く切り抜けたベテラン選手中心に10名がゴール。トップはベテラン大門浩二選手。5秒差でやはりベテランの鈴木博司選手が続いた。

11月24日 3日目 TASK 2

3日目は、日本代表選手を含む多くの選手がぶっ飛ばすほどの渋いコンディション。そんななか山頂から100m程

しか上がらない厳しい展開に苦しみながらも、8名の選手がゴール。1位の大門選手は1回目のスタートから終始単独で先頭を飛び、トップゴールを決めた。

11月25日 4日目 TASK 3

最終日はサーマルトップが1800mと、初日ほど高くはないが朝霧らしいスピードレースな展開。

序盤は鈴木博司選手がひとり先行するも、中盤からは田中元気選手が先行して後続を引き離し、最終的には第二集団を10分近く引き離してトップゴール。その後10名くらいが第二集団でゴール。2回目スタートを選択したベテラン板垣直樹選手、30代牟田園明選手がそのすぐ後にゴールし好タイムを叩き出す。しかし田中元気選手が板垣選手、牟田園選手より30秒速く、満点となる1000点を獲得した。

若い選手の活躍が目立った大会だった。



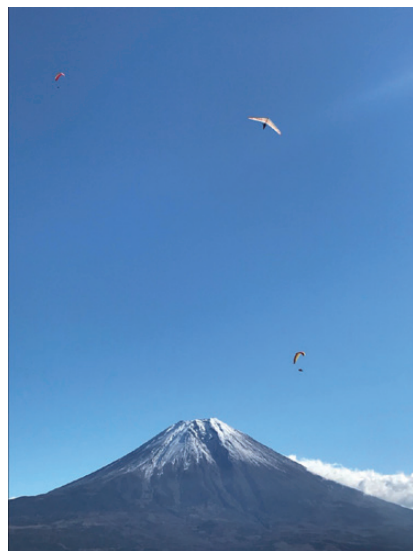
パイロットブリーフィング。本日のタスクは……。

だが、総合成績では3日目の渋いコンディションを取りこぼさなかったベテラン選手が上位を独占。優勝は、2日目、3日目でタスクトップを取り、最終日も4位と圧倒的な強さを見せた大門選手。7度目の日本選手権を勝ち取った。

入賞した選手全員が複数回日本代表を経験しており、スピードレースのみならずサバイバルレースにも対応できる能力が求められる大会となった。

そんななかでも、8位に入った若手のホープ、名草選手の今後の活躍が楽しみである。

また、本大会では大会初心者でも気軽に参加できるキングポスト機限定の



渋いのではという懸念を吹き飛ばすコンディションに。

スポーツクラスを設けた。23日と25日の2タスクが成立。大学生の塚崎選手と大沼選手が初ゴールを達成したり、大沼選手が最終日に単独ゴールを決めたりと、大いに盛り上がった。優勝はタスク1で2位に20分以上差を付けてファーストゴールを決めた、地元岡田明子選手。

[総合]

1位	大門 浩二	茨 城	2374点
2位	氏家 良彦	兵 庫	2247点
3位	太田 昇吾	茨 城	2149点
4位	鈴木 由路	東 京	2122点
5位	鈴木 博司	岐 阜	2094点
6位	板垣 直樹	茨 城	2066点



総合トップ6。後列中央が7回日本一の大門浩二選手。

[スポーツクラス]

1位	岡田 明子	静 岡	468点
2位	塚崎 圭一	大 阪	338点
3位	大沼 智	神奈川	331点

日本選手権者から

大門浩二

再び日本選手権者になったことを嬉しく思います。

前回のブラジル世界選手権を最後に世界選手権は卒業すると決めていたので、国内大会においても競技に対するモチベーションがかなり下がっていました。また11月という時期のコンディ

ションについても競技性に不安を感じていましたが、幸いに寒気が流入して弱い冬型のコンディションで良い競技ができたと思います。

個人的には、あまり競技の成績を気にすることなくのんびりと楽しむつもりでしたので幸運だったと思います。特に西富士エリアは古くから競技フライトの盛んなエリアで慣れていたのも全くプレッシャー無く楽しめました。

早く国内選手で「奴はすごいな!」と思える選手が育って、国内外で活躍して欲しいと願っています。



選手も役員もお疲れさまでした。参加者数が規程以下で女子日本選手権者を選べなかったのが残念。

ハンググライディングシリーズ

2018年ランキング覇者は鈴木博司・佐野容子

リーグ戦を勝ち抜いたパイロットたち/2018年の競技を振り返って

12月31日で2018年競技シーズンが終了。ハンググライディング、パラグライディング、それぞれのリーグ戦のランキングが決まりました。年間チャンピオンとなった皆さん、おめでとうございます。また、大会の企画運営にあられた皆さん、お疲れさまでした。

まずはハンググライディングシリー

ズのランキングをお知らせします（他のランキングは次号に掲載）。

この1月1日から2019年競技シーズンがスタートしました。コンディションに恵まれ充実した競技ができることを祈ります。

ハンググライディングシリーズ

[総合]

1位	鈴木 博司	岐 阜	2661点
2位	板垣 直樹	茨 城	2631点
3位	田中 元気	大 阪	2577点
4位	氏家 良彦	兵 庫	2572点
5位	鈴木 由路	東 京	2535点
6位	大門 浩二	茨 城	2451点

[女子]

1位	佐野 容子	和歌山	1109点
2位	櫻井さやか	栃 木	787点
3位	谷古宇瑞子	栃 木	610点

[世界選手権選抜総合]

1位	鈴木 由路	東 京	153.00点
2位	氏家 良彦	兵 庫	145.50点
3位	板垣 直樹	茨 城	143.74点
4位	大門 浩二	茨 城	142.10点
5位	太田 昇吾	茨 城	135.76点
6位	鈴木 博司	岐 阜	134.22点

[世界選手権選抜女子]

1位	佐野 容子	和歌山	102.85点
2位	谷古宇瑞子	栃 木	30.77点
3位	櫻井さやか	栃 木	29.20点



鈴木博司選手、2017年ブラジルでの世界選手権より。



総合1位
鈴木 博司

2018年は大会にあまり多く参加することができず、参加した大会でも総合で上位に入賞することもなかったの

2018年のハンググライディングシリーズは天候に恵まれずDay qualityが1になったのは板敷の1本と日本選手権の2本の計3本だけだった。

上位陣はベテランが強く大きな入れ替わりはなかったがAシードに初めて石坂繁人と名草慧が入った。

ハンググライディングシリーズは年齢層が厚く30・40代はまだまだ中堅だ。そんな中で石坂はここ10年、BシードやCシードには入っていたが長年努力した結果の堂々、7位だ。

20代ではトップ10に名草と、昨年のCシードからBシードに箕谷将明が入り、若手の台頭が頼もしくうれしい限りだ。

一方で60代の横山弘通や外村仁克

の「レジェンド」がCシードにいることも経験がモノを言うこの競技ならではの。今年もまだまだ頑張っている。

残念なのは女子選手が減りシリーズ参加選手6人で30位までのシードに誰も入らなかったことだ。パラグライディングも装備重量は増えているが、ハングは軽い女子でも45kg以上の装備となる。体力的に厳しいのだが、女子選手が増え活躍できるように選手育成にも努力したい。

また、全体の参加者が78人と、ここ数年では最も少なくなってしまった。これは人気の池田山の大会が無かったこと等も影響していると思われる。全体の参加者が増えるように

全ての大会を魅力あるものにしていきたい。

新たな開催地を探し大会開催数を増やす、必ずパーティーを開催する、エントリー費を安くする等、具体的な方針を作り参加選手を増やしていきたい。

世界選抜ランキングでは昨年のポイント半分と今年の大会のポイントの合算で、2021年のマケドニア大会への日本代表選手が決まる。マケドニア・クルシェボは環境の整った良いエリアなので、代表メンバーを狙い盛り上げよう！

(2021年の世界選手権に立候補しているのはマケドニアだけで、まだ正式決定ではありません。)

で、ハンググライディングシリーズで1位になるとは思っておらず、結果を見て正直驚きました。

2018シリーズは成立本数が少なくランキングに採用されるフライト本数も少なかったことと、最終戦の日本選手権が得意な西富士で良いコンディションでフライトできたことがこの結果に繋がったと思います。

久し振りのランキング1位は素直に嬉しいですが、優勝ができず大満足の

結果とは言えませんでした。2019年は優勝はもちろんのことランキングの連覇を目指したいと思います。



女子1位
佐野 容子

2018年は天候に恵まれず、個人的にも不本意なフライトが多かったのですが、運良くシリーズランキング女子1

位を獲得することができ嬉しく思います。ありがとうございます。

2019年は競技だけでなくフリーフライトにおいても、フライトコンテスト(*)にチャレンジできる位の意気込みを持ってフライトに臨みたいと思います。

*フライトコンテスト：2017年にスタート。従来のフリーディスタンスに、アウト&リターン、トライアングル、デュレーションが加わった。

アジア競技大会で金メダルの男子団体5選手に「団長賞」

2018年8月18日から9月2日までインドネシアで開催された第18回アジア競技大会、パラグライディング競技に出場した日本チームが、クロスカントリー男子団体に金メダル、同じく女子団体に銀メダルを獲得したことは、たいへん嬉しいできごとでした。

また、その快挙によって「多くの人びとに航空スポーツの魅力を伝えることに貢献」したと、日本航空協会の「空の夢賞」を受賞。選手たちは、9月20日の「空の日」航空関係者表彰式で、揃いの日本選手団ユニフォーム、胸にメダルの姿を披露しました。

さらに昨年末、金メダル獲得の男子5選手（岩崎拓夫、上山太郎、呉本圭樹、中川喜昭、廣川靖晃）に、日本代表選手団の山下泰裕団長から「団長賞」が授与されました。皆さん、おめでとうございます！

アジア競技大会（アジア大会）は、アジアのオリンピックとも言われる



金メダルを獲得、表彰式での日本男子団体5選手。

大規模な大会。特に昨大会は東京オリンピックの前哨戦と捉えられ、メダルラッシュに日本中が湧きました。今後の大会でもスカイスportsが採用され、広くその魅力をアピールするきっかけとなるよう願います。



JHFに届けられた「団長賞」にも5選手の姿が。

アキュラシーのおもしろさは やってみなくちゃわからない

その4

パラグライディング競技委員会の鈴木洋史さんに、アキュラシーの魅力を語ってもらってきましたが、今回がひとまず最終回です。アキュラシーのおもしろさを感じるには、競技を実際に見ることから。近くで大会が開かれるときは観戦してみてください。

わかりやすいことが大きな魅力



宮城県白石でパラグライダーを始め、アキュラシー歴6年目の鈴木洋史です。

アキュラシーの魅力のひとつは、わかりやすいこと。「的の中心に一番近く降りた選手が勝ち」ですから、何を競っているのか、パラグライダーを初めて見る人でも理解してくれます。

他人が飛ぶのを見ても楽しくないと思うかもしれませんが、これが結構おもしろい。審査員になったつもりで選手の動きを見てみましょう。

まだアキュラシーに慣れていない選手は、ターゲットの近くになってから帳尻を合わせようとジタバタしがち。

上手い選手は無駄なく滑るような動きで進入してきて、きれいにスーッと降ります。基本に忠実、安定していて、ランディングのお手本として講習生に見せたいほど。途中で風が変わっても的確に対処して、フラフラしない。見

ていて安心する降り方です。

この域に達するには、相当の練習が必要です。ランディングの技術はもちろんですが、エリア全体の空気の流れを観察して、それに合わせてフライトを組み立てる力、風の変化に対して柔軟に修正する能力を身につけなければ、着陸精度を上げることはできません。アキュラシーのターゲットは広く開けた場所（ランディング場）に設置されるので、サーマルが発生しやすく、不安定な気流に翻弄されることも度々です。ターゲットだけを見ているは勝てません。

老若男女、多種多様な選手が集まることもアキュラシーの魅力です。競技初心者も入ってきやすい。ビギナーとベテランの間に「壁」がなくて、飛びを競うだけでなく、いろいろな人と話ができるのが楽しいですね。昨年の高山の大会で「来年は大会に出ようかな」という80代のスタッフに出会いましたが、年配の人が臆せず参加できるのも、この競技のいいところです。

ここ数年、少しずつですが大会を増やす努力をしてきました。身近なエリアで大会が開かれたら、もっと気軽に参加できますよね。競技人口を増やして、アキュラシーをもっともっと楽しく盛り上げていきたいと思います。

アジア大会でアキュラシー競技が採

用されたことがきっかけになったのか、最近はクロスカントリー競技の選手がアキュラシー大会に顔を出してくれることも増え、いい交流の場所になっています。彼らの話を聞きたいから来る人もいるし、僕もJ2大会に出てみたいなあと思うようになりました。

だれもが親しみやすいスポーツに！

海外に目を向けると、東ヨーロッパや東南アジアの国々がアキュラシーの強豪です。気象や地形によってスケールの大きなクロスカントリーが困難な地域が多いですね。

東ヨーロッパのパイロットは、広大な平野の丘からテイクオフして、強風リッジのなかで遊びながら腕を上げていく、そんなイメージです。適当な丘もない地域ではトーイングで離陸しています。ヨーロッパアルプスの国々とは、飛び方の質が違うなあという感じですね。その土地の条件ならではの楽しみ方をしていると言えいいのかな。

東南アジアのいわゆる新興国では、スポーツ文化がまだ深くないから、たとえばサッカーなどでは、歴史の長い国のノウハウには敵わない。なかなか追いつけないんですね。それで、新しいスポーツを国をあげて応援しているように思います。パラグライディングの選手というより、アキュラシーの選手を育てている国もあると聞きました。

アキュラシー強豪のインドネシアでは、普通にテレビで競技のニュースを流していて、大会にはたくさんのギャラリーが来ます。子どもでもアキュラシーがどんなスポーツか知っている。「的の中心に近い人が勝ち」というのは、強みですね。

わかりやすいし、山奥でなくても競技ができる。こんなアキュラシーのいいところを活かして、日本でもこれからもっとギャラリーに来てもらう工夫をしていきたいですね。

一般の方々にこのスポーツがどんなものか見てもらう。そこからパラグライディング入門にも繋がるかもしれないし、何よりもギャラリーがたくさんいると選手のテンションが上がります！大会運営側としては観客の安全管理などに気を遣う必要が出てきますけれど。

いま、フェンシング界の取り組みに注目しています。動きが速くて見えに



狙うはパッド中心、ゼロスコア。2018年アキュラシー日本選手権より。

くいから、観客がより楽しめるように
試合会場の大型ビジョンで剣先の動き
をCG解説しているんですね。

アキュラシー大会でもそんなことが
できたら……と、いろいろ構想中です。
まず一般に認知してもらうこと。そし
て仲間を増やしていくこと。大命題で
す。でも夢は大きく、楽しみながらやっ
ていきたいと思います。フライヤーに
とっても一般の人にとっても「親しみ
やすいアキュラシー」をめざして。

皆さんも、案ずるより何とやら、今
年はアキュラシー大会に出てみましょ
う！ お待ちしています。

***JHFパラグライディングアキュラシー
リーグの大会は、技能証明した教員ま
たはエリア教員の承認があれば、ノー
ビスパイロットから参加できます
(JHFフライヤー会員登録が有効であ
ること)。ぜひ選手としてアキュラシー
のおもしろさを実感してください。**

***アキュラシーリーグ大会の予定は、
JHFウェブサイト内、PG競技委員会
のページに掲載しています。リーグへ
の登録もこのページから。登録選手の
リストやランキングも見られます。**



わかりやすいアキュラシー競技をさらに親しみやすいものにした。2018年アキュラシー日本選手権より。

JHFからのお知らせ

■2019年カレンダーを頒布中です

毎年好評のJHFカレンダー、2019年
版を頒布中です。

第5回JHFハンググライダー・パラ
グライダーフォトコンテストにご応募
いただいた作品の中から14点を採用。
A4サイズを上下に広げて各月A3サイ
ズの縦型吊り下げタイプです。

ご希望の方は、JHF登録スクールで
入手いただくか、JHF事務局にお申し
込みください。事務局申込の場合は送
料込み1部500円でお送りします。残



数に限りがありますので、早めの申し
込みをお願いします。

申込方法：

氏名／フライヤー会員No.／Eメール
アドレス／電話番号（携帯可）／郵便
番号・住所／注文数／口座振込予定日
を明記し、JHF事務局にEメールまた
はFAXで。振込先は次のとおり。入
金を確認し次第、カレンダーを発送し
ます。

〔銀行振込〕三井住友銀行小石川支店
普通口座3488605 公益社団法人日本
ハング・パラグライディング連盟

〔郵便振替〕00180-8-650201

JHF（全角ローマ字）

■補助動力副読本を頒布しています

「JHFパラグライディング教本副読本
〔動力付きパラグライダー（補助動力技
能証／MPG技能証課程）〕」を頒布中。

動力を使用したパラグライディング
の練習のポイントと最低限の基礎知識
を載せており、パラグライディング教
本とともに繰り返し読んで、安全で楽

しいフライト活動の助けにしてくだ
さるものです。初心者の方ももちろん、
すでに技能証をお持ちの方も、ぜひ。

価格・申込方法：

頒布価格1,000円（送料別）。JHF登録
スクールまたはJHF事務局にご注文く
ださい。注文書はJHFウェブサイト「書
籍情報」からダウンロードできます。

■PG教本基礎技術DVDを頒布中です

基礎技術DVD「JHFパラグライディ
ング教本基礎技術」、続いて第2弾「テ
イクオフとランディング」を頒布して
います。

「JHFパラグライディング教本基礎技
術」には、JHF教本のA・B級からク
ロスカントリーまで各課程を修了する
ために求められる基本的なフライト技
術について、ベテラン教員による模範
演技を収録しています。実際の飛行で
の操作を、複数の方向から近接撮影し
たものが2画面で表示され、各操作で
の動きをはっきりと見る事ができ、
判りやすく表現されています。

第2弾は、フライトの基本中の基本であるテイクオフとランディングを収録しており、フロントライズアップの基本から場周アプローチによるランディングまで、各操作のポイントをつかみやすい内容です。

価格・申込方法：

頒布価格それぞれ1枚1,500円（送料込）で、お申し込み10枚毎に2枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、最寄りのスクールでご購入いただくか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。

■JHF備品を貸し出しています

JHFでは備品の貸し出しをしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」より貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申し込みください。

■住所を変更したらお知らせください

住所を変更された方は、お手数ですが、下記項目をメール、FAX、郵便などでJHF事務局にご連絡ください。

フライヤー会員No./お名前/変更後のご住所/連絡先電話番号/メールアドレス

会費を銀行口座振替・コンビニ送金される場合、銀行等から新住所の連絡はありません。

■お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail : info@jhf.hangpara.or.jp

<https://jhf.hangpara.or.jp/>

*このJHFレポートには賛助会員からのお知らせを同封、神奈川県在住の方に県連盟からのお知らせも同封しています。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱UFJ銀行（銀行コード0005）

巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・

パラグライディング連盟

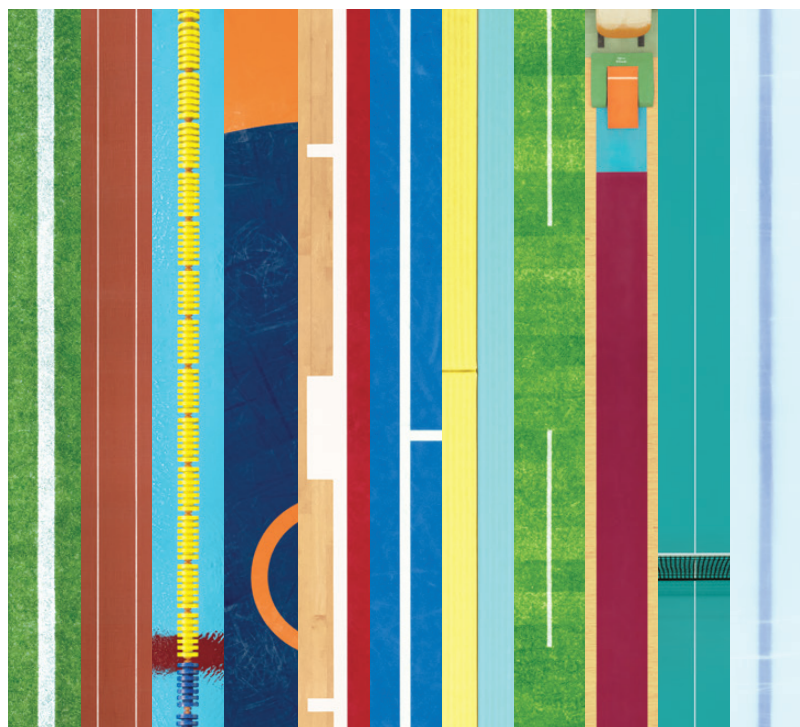
JHFレポート224号

発行日：2019年（平成31年）1月20日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社サンライズ



誰もが世界一になれるわけでもない
誰もが日本代表になれるわけでもない
それでも人はスポーツをする
昨日の自分に追い越されないために
明日の自分を追い越すために
スポーツに鍛えられた人生は
勝っても負けても きっと負けない

スポーツは、
自分を超越するためにある。

スポーツくじ



スポーツくじ (toto・BIG) の収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。
www.toto-dream.com www.toto-growing.com
●19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。私営金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

上空利用可能デジタル無線機 使用のお勧め

2022年にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリアで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員(JHFウェブサイト)にバナーを掲載)からも購入することができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を15台保有し、フライヤー会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります(1年以下の懲役または100万円以下の罰金)。うっかり忘れていたということのないようお願いします。